

伊藤晴雨 いとう はるう 日本畫家。明治十五年(二月)に東京生れ。昭和二十六年一月二十八日歿(八二—九六)。本名一。別號猛雨、靜雨。父は彫金師。野澤堤雨の師等。『毎夕新聞』、『東京毎日新聞』、『讀賣新聞』の順次入社して插畫を擔當。のち演劇界の看板、番附等を描き、次ついでに江戸趣味の著作に従事。青繪あおえ、幽霊書等の風俗畫家として有名。著書に『責の語』(昭和四年九月)、『温故書屋』、『いちはは引風俗野史(第五のまき)・迷信の信仰の』(昭和六年十一月十五日城北書院)、『日本刑罰風俗圖史・上巻』(藤澤樹彦共著・警察博物館編、昭和十二年十一月十五日粹古堂)、『性犯罪と私刑』(昭和二十七年四月十五日伊藤敬次郎刊「晴雨隨筆」)、『文京區繪物語』(昭和二十七年十月十日文京タムス社)、『はだしの放談—紳士・淑女大い』(男)の語る(第一集)』(合著、昭和二十年九月一日あまとり社)、『男門とこのも隨筆—二十人の武者修行』(合著、昭和二十五年十一月二十日あまとり社)等。『鬼六春』、『伊藤晴雨物語』(昭和二十六年一月)、『河出文庫』(河出文庫)刊。

